

宮臨技学術部 研修会報告書 平成25年度 学術部長 氏家和明	
研修会名	「臨床検査技師と医学論文」
担当分野	管理運営
開催日時・時間	2013/8/24 14:00～16:00
開催会場	仙台市立病院 10階大会議室
参加人数	会員15名・賛助会員1名・非会員2名 実務委員2名・講師2名 合計 22名
次第	<p>14:00～14:30 「宮城県臨床検査技師会誌の論文掲載の目的と投稿規定」 宮城県臨床検査技師会誌編集責任者 佐藤 誠</p> <p>14:30～16:00 講演「医学論文の書き方」 東北大学病院 輸血・細胞治療部 細胞プロセッシングセンター 伊藤 貴子 先生</p>
内容	<p>「宮城県臨床検査技師会誌投稿規定について」 この会誌の目的、発行までの経緯が簡単に述べられ、投稿規定について説明があった。内容は投稿資格、倫理、投稿原稿の種類、原稿の取り扱い、作成方法等であった。まだ規定について修正する点もあるということで、今後ホームページなどでお知らせがあることと思う。投稿予定の方は注意していただきたい。</p> <p>「医学論文の書き方」 医学論文シリーズの第2回目。（第1回は平成25年1月に開催済み）まず、準備として論文を書く理由をはっきりとさせ、期限を決めなければならない。最後までモチベーションを維持させるためにもこの点は必要とのこと。またすべてがそろってから書き始めるのではなく、研究と同時進行でもよく、書けるところから書く。実験方法は、他の研究者が追試できる情報を網羅している点が重要である。結果には、著者の考え、主張は書かず、客観的な事実のみ書く。結論は唯一自分の考え、主張を述べる場所である。伊藤先生には、そのほか倫理、文章の構成 表および図、略語、キーワード等の注意しなければならない点を細かく説明していただいた。特に印象に残ったことは、何のために論文を書くのかということであった。動機はなんでもOKで、論文が情報の共有となり、他の研究者が無駄な実験を省くことができ、次の実験に進むことができる。論文を書くのは一人ではつらい作業であり、職場の環境作りも必要とのこと。この講義は論文を書こうと思っている方にとって、大変参考になった研修会であったと思う。</p>

